

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶるーべりー石橋		
○保護者評価実施期間	R8年1月4日		R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	R8年4月1日		R8年4月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年5月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	立地の良さ(徒歩5分圏内に人気のない公園がある)	粗大運動、リレーや小集団のスポーツ等の取り組み 発散の場や時間の提供	オリエンテーリングや搜索ゲームといった公園ならではの、 公園の広さを活用したプログラムの実施 *しかしながら住宅地や自動車道に面しているので安全面や 地域住民への配慮は必要
2	利用児の府県・市町村・地域が広く偏りが少ない	地域に着目したプログラム(クイズ・外出等)から地域の違い など学べることが多い 個人的な外出の話など他地域への広がり繋がっている	限界はあるが可能な限り利用児の地域は広げていければと思 う 利用児各々に地域に着目したプログラムを提供する形を考え ていく
3	プログラム種類の充実	食育・感触・運動など五感を刺激する内容を意識して設定し、 多種に渡る様に充実を図っている	バリエーションを増やせるように他事業所を参考にしたり、 スタッフ皆で立案し充実を図る

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数の少なさ(基本大きな部屋が一つ)	施工時に部屋を設けなかったこと	パーティションや事務所等使う事で差別化は図れている 周りを見るといった状況把握には繋がっているのでそちらへ のシフトも検討していく
2	個別療育への比重が少なく偏りがある	要望から集団の必要性が大きく提供に偏りが生まれており、集 団を優先しがちである 利用児の利用時間に差があり短い子は個別に疎外感を示さな くもない	個別支援は勿論の事、集団で行う中でも個人に目を向け支 援を継続して意識していく 療育内容も個別・集団とバランスを意識していき、習慣を変 えていく 利用時間も加味していく
3	立地の悪さ(大きな道路に面している)	療育内容ではないが、移動時(送迎時の乗下車・徒歩での外 出)の危険性は否めない	市の対応から道路に柵は設置されたが切れ間も多い 近くに幼稚園もあり、迎え時には自転車も多い 安全の確保・危機管理という点ではかなり役立つので上手く 活用していく